

別紙1-1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

|      |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 甲 | 第 | 号 |
|------|---|---|---|---|

氏 名 西川 貴広

論 文 題 目

Lewis score on capsule endoscopy can predict the prognosis in patients with small bowel lesions of Crohn's disease

(カプセル内視鏡ルイススコアは小腸病変を有するクローン病患者の予後を予測できる)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

高橋 義行 

名古屋大学教授

委員

内田 広夫 

名古屋大学教授

指導教授

藤 成 亮 弘 

## 論文審査の結果の要旨

別紙 1-2




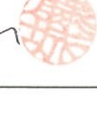
今回、クローン病（CD）に対してカプセル内視鏡（CE）を施行した症例の予後を後方視的に検討したところ、ルイススコア（LS）270以上と Prognostic nutritional index（PNI）45未満がCD関連緊急入院および症状再燃の有意なリスク因子であった。これらの因子の妥当性を検討するために、新たにCDに対してCEを施行した症例を前向きに観察したところ、同様にLS270以上とPNI45未満で有意にCD関連緊急入院率および症状再燃率が高いことが示された。また、LS270以上であっても、治療介入により予後が改善することが示唆された。このことから、CD患者の予後をLSとPNIにより予測することが可能であり、LS270は、治療介入を検討すべきカットオフ値として有用であると考察された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. CDにおける粘膜治癒（MH）の定義は、現在のところ明確ではなく、内視鏡所見に基づいた治療目標も定まっていない。MHを消化管に全く活動性がない状態と定義すると、過度な治療変更を必要とし、治療の選択肢を狭めてしまう可能性がある。本検討により、LS270未満の小病変であれば許容される可能性が示唆された。
2. 従来、臨床症状に応じて治療介入が行われてきた。しかし、症状を欠く場合でも、消化管に活動性病変を有し、それらが予後に影響を及ぼしうるため、内視鏡的な寛解が重要であるとされる。臨床的寛解にある患者は、治療変更を希望されない場合があり、医師患者間で常に治療目標を共有しておくことが重要であると考えられる。
3. 本検討は検討期間が長く、CD診療において様々な変化があったと考えられる。一つは、治療目標が臨床的な寛解ではなく内視鏡的な寛解の達成となり、症状の比較的安定している患者に対する Monitoring を目的とした検査が増加したことである。治療においては、早期から生物学的製剤をはじめとする強力な治療を行う Top down 療法や治療のステップアップを迅速に行う Accelerated step up が選択されること、新規の生物学的製剤の使用が可能となったことが大きな変化である。本検討では、診療方針が異なる期間において、結果の再現性が確認できた。
4. CD患者の多くは、栄養障害を有している。腸管の活動性炎症は、吸収不良や消耗による栄養障害をもたらすため、活動性の評価において、栄養状態は重要な指標と考えられる。栄養指標の中で、後方視的な検討に際し、大多数の症例で正確に情報収集が可能である点を重視し、PNIに着目した。PNIは血清アルブミン値とリンパ球数から簡便に算出され、本検討にてCDの予後を予測しうる有用な指標であると考察された。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                 |                                                                                         |                 |                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 報告番号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ※ 甲 第           | 号                                                                                       | 氏 名             | 西 川 貴 広                                                                                    |
| 試験担当者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 主査              | 小寺 泰弘  | 副査 <sub>1</sub> | 高橋 義行   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 副査 <sub>2</sub> | 内田 広夫  | 指導教授            | 藤 岡 克弘  |
| (試験の結果の要旨)                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                 |                                                                                         |                 |                                                                                            |
| <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クロウン病における粘膜治癒について</li> <li>2. クロウン病において治療強化を決定する要件について</li> <li>3. 検討期間中のクロウン病における診療方針の変化について</li> <li>4. クロウン病患者の栄養評価について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p> |                 |                                                                                         |                 |                                                                                            |